



---

## 夢だった現在

---

名前：サルマ・エルアルフィ

エジプトの大学：アインシャムス大学

学部：言語学部、日本語学科

日本の大学：鹿児島大学

学部：法文学部（日研究生）



## はじめに

夢が叶ったら、とてもうれしいはずだ。もちろんだれにでも夢があるのだが、その夢が叶うように頑張っているだろうか。人は普通に働けば、普通の人になるかもしれないが、頑張っている人はもっと夢に近くなるはずである。だから私はまじめに勉強しようと思うようになった。



私はエジプトの首都カイロにあるアインシャムス大学言語学部日本語学科の学生だ。この大学とカイロ大学はエジプトで一番古い大学だ。言語学部では **13** もの言語を教えている。学生たちは二つの言語を選んだ上でアラビア語も習っている。

私は日本語学科に入ったが、英語もアラビア語も習っている。エジプトでは日本語を勉強している人はそんなに多くない。日本語を教える大学は二つしかない。毎年エジプトで日本語学科に入る学生は **250** 人に過ぎない。しかし、これは私がこの学科を選んだ理由の一つである。日本語が話せる人が多かったら、卒業しても仕事が見つからない可能性があるが、私の場合、その問題はないはずだ。

私の先輩は卒業後すぐ仕事を見つけた。大学で先生になる人、日本の会社で働く人、そして在エジプト日本大使館で働く友達もいる。しかし私の夢は友達と少し違う。

私は小学生のときから日本という発展した国について聞いていた。「何か欲しかったら、日本で見つけるべきだ」という話をいつも聞いていた。それで、中学生のころ、日本について調べようと思った。そして日本は多くの技術がある国だ



とわかった。ロボットを作るのは私にとって、一番面白そうだった。そのため、高校ではとても日本に関心を持つようになった。

高校を卒業して、言語学部の日本語学科に入った。一年生の最初の日から、先生が日本語だけで話していたのは、一番驚いたことだった。時々、授業の内容が全く分からなかったが、次第に授業のスタイルに慣れた。その時、日本に留学したいと思い、懸命に勉強した。留学は私の夢だった。

日本に来るのは、とても大変だった。二年生の時、在エジプト日本大使館で日本に留学するための筆記試験と面接試験を受けた。この試験を受けた学生たちは5人だった。最初の筆記試験は私を含め三人が合格した。そして、面接試験に合格したのは私ともう一人だったが、日本でもう一度私たちの書類を確認し、私だけが選ばれることになった。

日本に来てから、これから何をするつもりなのかと考えた。その時、夢より、将来について考えたほうがいとわかった。

私は2018年7月にエジプトの大学を卒業する予定である。卒業したら、外務省で働きたいと思う。日本にある進んだ技術などをエジプトに伝えたいと思う。そのためには政治や経済を勉強する必要があるので、これからも頑張りたい。



## 旅行

### 鹿児島がきれいに見えた：

日本に来てからもう9か月が過ぎた。いろいろなところを訪ねたがまだ行ってみたいところもある。



ここに来てから、何回も歓迎会があったが、その一つで、知り合った鹿児島国際大学のスタッフが、バスツアーを紹介してくれた。最初のバスツアーはいちき串木野市だった。そこで長崎鼻を訪ねた。11月だったので、とても涼しく、海はとてもきれいだった。滑りやすい石もたくさんあった。ちょっと危なかったが、楽しかったので、一番奥にある石まで行った。



その後、薩摩藩英国留学記念館も訪ねた。そこでイギリスに留学した日本人の旅について、いろいろなことがわかった。江戸時代、日本は鎖国していたので、その学生たちは初めて留学する学生だった。そのため、この旅はとても重要な旅だった。それから、学生たちを運んだ船「みらいへ」を見に行ったら、すごく大きな船で、この中に、たくさんの部屋がある。



船で、おばあさんがこのような形のひもをどうやって作るかを教えてくれた。どうしてこのような物がいつも船にあるか、おばあさんに聞くのを忘れ、今までこの質問の答えがわからない。

それから、友達と一緒に桜島に行った。鹿児島に来る前、ここに火山があると知り、とても驚いた。それまで、火山があるところには誰も住んでいないという考えがあったからだ。しかし、火山に危険レベルがあることはぜんぜん知らなかった。エジプトと中東に火山がぜんぜんないので、火山がある町に住むのはとても心配だった。しかし、鹿児島に来たら、桜島はそんなに危なくないとわかった。



その日の朝フェリーに乗って、桜島まで行った。港でバスに乗って、<sup>てんぼうじょ</sup>展望所まで行った。とても心配していたが、どんどんその気持ちはなくなった。

それから足湯温泉に行った。その時まで足湯温泉があると知らなかった。ふつうの温泉に入るのはちょっと恥ずかしいと思うので、足湯温泉があつてとても楽しかった。



私が考えたより、鹿児島はとてもきれいだ。私はカイロ首都の出身だから、私にとって、鹿児島はいなかだと思うのだが、きれいな観光地もたくさんある。

## 新しい経験と楽しい旅行：

クリスマスと正月は東京で祝った。その時初めて自分で計画を立てたが、経験がなかったので、とてもまずいことをしてしまった。

泊まる所は筑波だった。成田空港からそこまで、直接行けるバスがありそうだが、バスの時刻表をチェックせずに、成田空港行きの飛行機を予約した。そして、空港についたのは、遅かったから、その時、つくばまで直接行くバスがなかった。これはとてもショックなことだった。その時「乗換案内」というアプリを使って、空港からつくばまでの行きかたがわかった。

そこに行くには三つの電車に乗らなければならないのは心配だったが、一番大きな問題は、その電車が最後の電車だったことだ。一分でも遅くなった場合は、次の日まで待つしかない。

そして、私は二つのかばんを持っていた。一つは10キロで、もう一つは20キロだった。そのかばんを持って、乗り換えをした。とても大変なことだったが、電車に遅れなかったので良かった。

最初の日には、筑波山を訪ねた。そこで、初めてロープウェイもケーブルカーも乗ったのでとても楽しかった。



次の日、エジプト料理の店に行き、久しぶりの料理をたくさん食べた。その店の人は日本人で、ご主人はエジプト人なので、エジプト料理を作るのはとても上手だった。

同じ日に、Yoyogi Park にも、浅草にも行った。浅草寺も訪ねた。



浅草寺



Yoyogi park

それから、正月の朝、ディズニーシーに行った。3年前、姉はディズニーランドを訪ね、すごく楽しかったと言ったが、こんなに楽しいなんて、自分で行く前には、わからなかった。子供の遊園地だと思っていたが、いろいろなディズニーキャラクターがあり、とてもうれしかった。



夜は、横浜へカウントダウンを見に行った。観覧車にも乗ったが、鹿児島  
の観覧車より高いので、とても怖かった。

その時電車がなかったので、つくば  
に帰るのに、次の日まで道で待った。

日本でたくさん旅行したが、まだ行き  
たい町があるので、機会があったら、  
帰国する前に、もうちょっと旅行したいと思う。



横浜

日本に来る前、自分で旅行に行ったり、計画を立てたりすることがなかったので、この経験は個人的にとっても重要だ。



## 日本の生活

私は平成 27 年 10 月に日本に来た。それは初めて外国に行くことだった。母と父は世界中を旅行して、姉妹はフライトアテンダントだからたくさんの国を訪ねた。しかし、私は国内の旅行しかしていなかった。なぜなら、機会がなかったからだ。しかし日本語学科に入り、日本に留学する機会を見つけた。初めて飛行機に乗ったのは、28 時間ぐらいのフライトだったから、私にとっては怖い経験だった。そのあと、何回も飛行機に乗ったが、そんなに長い時間じゃなかった。



日本に着いた時、バスで成田空港から羽田空港まで行った。一番うれしかったのは、そのバスにファラオの絵が書いてあったことだ。エジプトは歴史が古いが、日本のバスにファラオの絵が書いてあるとは考えたことがない。びっく

りした。

鹿児島でいろいろなことをした。来たばかりの時、何回も歓迎会をしてもらった。そして、ハロウィンパーティーもあった。エジプトでハロウィンパーティーをあまりしていないので、とてもおもしろかった。クリスマスパーティーもあった。そして、鹿児島のおはら祭りのとき、道で、日本人と一緒に踊った。



それから、ある時、日本人が料理を作るイベントがあった。その時、他の人はなんでも食べられるが、私だけ食べられないものがあるので、私に聞いたあと、煮魚を作ろうと決めた。私はハラールの食べ物しか食べられないからだ。そして、普通は煮魚を作る時、アルコールを加えるのだが、私がアルコールが入っている食べ物が食べられないので、これを使わずに、煮魚を作った。さらに、ナイフやカッティングボードなど、何回もお湯で洗った。前に豚肉などをカットするのに使われているからだ。これはとても丁寧で、日本人が他のカルチャーを尊敬していることがよくわかった。



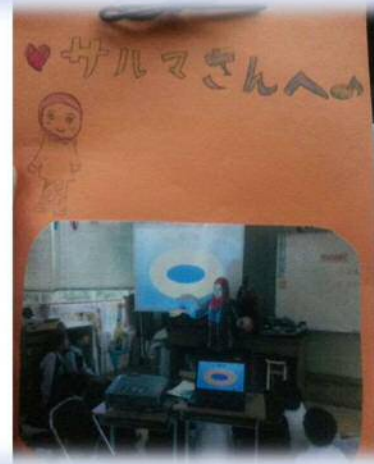
日本の習慣とエジプトの習慣はぜんぜん似ていない。食生活からして、日本の主な食べ物はごはんだ。朝も昼も夜もごはんを食べないといけませんが、エジプトではそんな食べ物がない。普通の昼ごはんは、ごはんかパスタ、肉と野菜と一緒に食べるが、朝ごはんはと晩御飯は、フルという伝統的な食べ物を食べる。そして、食事のタイミングだ。エジプトでは、朝ごはんは8時ごろだが、週末や仕事がない日、時々11時に食べる。そして、昼ごはんは日本では12時ごろ食べな



ければならず、会社や学校でも12時に食べる。しかし、エジプトで、学校には昼休みがあるが、会社にはない。だから、学生は昼ごはんを食べるが、社会人は家に帰ってから昼ごはんを食べる。

それから、エジプトでフォークやスプーンなどを使うが、日本では箸で食べるので、日本に来る前にずっと箸の練習をしてきた。

日本で一番楽しかった経験は、小学校に行った時だ。エジプトで、外国人があまり学校に行かないので、これは私にとってもとてもいい経験だった。そこでエジプトについての発表をして、子供たちは、英語で自己紹介をした。驚いたのはこの学生たちの英語の発音イントネーションなどがとても上手だったことだ。なぜ驚いたかという、普通は日本人は英語で話したら、カタカナのような発音で話すが、小学生たちはヨーロッパ人のような発音だった。その理由は、この学校の英語の先生はヨーロッパ人だったからだ。そして、一番うれしかったのは、一週間ぐらいあとで、学生たちから、感謝の手紙をもらったことだ。



日本での生活はとても面白くて、いろいろな新しい経験をしたし、忘れられない思い出もたくさんできた。



そして、1月には、スピーチコンテストに参加した。結果はあまりよくなかったが、とてもいい経験だった。

ここに来た時、日本人と生活するのはあまり簡単ではなかった。日本人は外国人が苦手だからだと思う。しかし、時間がたって、私のことをよく

知ったら、慣れると思う。

日本でいろいろなことをしたが、日本は広く、ここで、いろいろなことを体験できるので、まだしたいことがたくさんある。たとえば、東京のお台場に行ったり、富士山にも登ったりしたい。札幌の雪祭りにも行きたかったが、その時、試験があったので参加できなかった。しかし、私はラッキーだと思う。5年ぶりの雪が、鹿児島で降った。それまで、雪を見たことがなかったので、すごくうれしかった。



鹿児島で、いろいろな経験をした。それまで、できなかったことができるようになった。料理を作ったり、一人で生活したりすることは、日本に来る前、できなかったが、私のキャラクターは大きく変わった。

そして、日本人はエジプト人に似てると思う。心が優しいし、とても丁寧だからだ。私は母国から遠いところにいるという感じがぜんぜんしなかった。例えば、来た時知り合った日本人は、今までずっとお世話になっている。お母さんのように、病院に連れて行ってくれたり、なんでも教えてくれるのだ。

日本は、とてもきれいな国だし、観光地もたくさんあるし、人々も優しいから、機会があったらぜひもう一度戻りたい。

〈添付：屋久島異文化交流セミナーでの発表資料〉

